

令和 6 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ◆豊かな心と健やかな体を育成するため、生徒の生命・身体を守る取組みに努め、生徒の安心・安全を確保する学校。
- ◆生徒の主体的な教育活動の実践を通して、次代をリードし地域社会を支える人材を育成し、地域に根ざし、地域とともに歩む学校
- ◆4つのチカラを引き出し、伸ばす学校 《育む四つ葉のクローバー（4つのチカラ）》
 - （1）【確かな学力】基本的な学習習慣を身につけ、主体的な学びを通して社会につながる学力を養い、希望の進路を実現する力
 - （2）【コミュニケーション力】豊かな人権感覚を持って違いを豊かに捉える感性を育み、人とつながり、ともに高めあう仲間をつくる力
 - （3）【課題解決力】「答えのない問い」に真摯に向き合い、思考力・判断力・実践力を養い、未来を創造する力
 - （4）【地域貢献力】地域との連携や交流を通して、地域とつながり、地域の「人づくり・町づくり」に貢献する力

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- （1）【授業力向上】新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし、不断の授業改善に取り組む。
 - ア 授業力向上に係る取組みを教務企画部に位置づける。教科間で協働し、公開授業及び研究協議、相互授業見学、授業アンケートを活用した授業改善を進める。
※「授業アンケート」全評価軸平均 3.40 をめざす（R3:3.33、R4:3.30、R5:3.33）
 - イ「主体的・対話的で深い学び」の授業、「リーディング GIGA ハイスクール」研究指定による ICT 機器等を有効活用した授業をより一層展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上を図る。
※学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」満足度 R8:85%（R3:80.6、R4:75.9、R5:75.7）
※学校教育自己診断（生徒）「ICT 機器が授業等で活用されている」満足度 90%以上を維持（R3:91.0、R4:85.8、R5:95.1）
- （2）【進路実現の支援】教育産業を活用した基礎学力の定着を組織的に図り、生徒の希望する進路の幅を広げ、その実現を支援する。
 - ア 学力向上支援委員会が主導し、教科・学年の協働による教育産業の学習支援プログラムを有効に活用し、生徒個別の学習課題の克服と学習習慣の確立を図る。
※学校教育自己診断（生徒）「家庭での学習時間を確保している」肯定率 R8:50%（R3:49.0、R4:43.6、R5:48.5）
 - イ 早朝及び放課後や長期休業中の補習・講習の充実に取り組み、校内で自習できるスペースの整備・拡充を進める。
※学校教育自己診断（生徒）「補習・講習を十分行っている」肯定率 85%以上を維持（R3:78.6、R4:81.6、R5:86.5）
 - ウ 進路指導部と学年・教科が協働してクラス担任の進路指導力の向上に努め、生徒に寄り添い能力を引き出す指導を行い、希望の進路実現を図る。
※学校教育自己診断（生徒）「進路指導満足度」90%以上を維持（R3:86.0、R4:88.3、R5:92.9）
- （3）【専門コース制の充実】2つのコース（文系・理系）及び2つの専門コース（人文探究・こども保育）における3年間を通した学習プログラムを構築・遂行し、希望の進路実現を図る。
 - ※学校教育自己診断（生徒）「コースや授業は自分の将来に役に立つ」満足度 85%以上を維持（R3:78.9、R4:81.2、R5:86.5）
 - ※生徒の大学入試共通テストの受験者数を30人以上とする。（R3:19、R4:23、R5:26）
 - ※生徒の難関私立大学（関西8私大）及び国公立大学の現役のべ合格者数50人以上とする。（R3:45、R4:80、R5:23）

2 コミュニケーション力の育成

- （1）【生徒指導の充実】基本的生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
 - ア 挨拶、身だしなみの改善・定着、SNS 使用上のモラル向上、遅刻指導の強化、安全通学の啓発を全教職員で取り組む。
※学校教育自己診断（生徒）「基本的習慣の確立に力を入れている」肯定率 80%以上を維持（R3:76.1、R4:77.2、R5:82.8）
※年間遅刻者数、1,000 以下を維持（R3:802、R4:734、R5:878）
- （2）【ともに高めあう集団育成】特別活動や生徒会活動を通じて生徒の主体的な行動を促し、生徒の自主性や社会性を醸成する。
 - ア 部活動や各種行事を通じて周囲との協調性を養い、課題に向かって仲間とともに越える力を醸成する。
※学校教育自己診断（生徒）「学校行事満足度」80%以上を維持（R3:67.7、R4:78.5、R5:87.5）
- （3）【人権尊重の教育の充実】一人ひとりを大切に、だれもが安心して安全に学べる学校をつくる。
 - ア 心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、多様性を尊重し他者を思いやる豊かな人間性を育む。
※学校教育自己診断（生徒）「学校の人権意識育成姿勢」肯定率 90%以上を維持（R3:85.6、R4:89.1、R5:90.4）

3 課題解決力の育成

- （1）【主体的・対話的で深い学びの実践】授業や学校行事等において、生徒の主体的・対話的で深い学びの機会を持ち、思考力・判断力・表現力を育成する。
 - ア「総合的な探究の時間」では、調べ学習に終わることなく自分の考えを発表する機会を積極的に設定する。また、3か年の実施計画を作成する。
 - イ グローバルな視点を養い、SDGs の達成のために「いつ・どこで・だれと・何を・どのように」行動すればよいか考え、自ら主張できる力を醸成する。
※学校教育自己診断（生徒）「自分の考えをまとめて発表する」肯定率 75%以上を維持（R3:53.0、R4:57.2、R5:80.5）
- （2）【部活動の充実】部活動を通して自己の課題を克服し、挑戦し続ける力を育成する。共通の目標に向かい努力し続けるチームをつくる力を醸成する。
 - ※学校教育自己診断（生徒）「部活動に積極的に取組む」肯定率 60%以上を維持（R3:59.7、R4:57.9、R5:62.6）

4 地域貢献力の育成

- （1）教科・学年・分掌・部活動との協働による地域交流や社会資源を活用した教育活動を拡充する。
 - ア こども保育専門コース生徒によるこども園等への保育実習や交流。
 - イ 生徒による地域活動への参加及び地域との交流。
※生徒による地域交流の範囲を広げ、参加生徒が達成感を実感し、自己肯定感が高まるような活動内容の充実を図る。
- （2）学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育・防災教育の推進、主体的に清掃する意識と行動力を養う。
 - ※学校教育自己診断（生徒）「命を大切にすることを学ぶ」肯定率 90%以上を維持（R3:85.2、R4:91.1、R5:92.9）
 - ※学校教育自己診断（生徒）「清掃が行き届いている」肯定率 80%以上を維持（R3:71.2、R4:78.3、R5:85.6）
- （3）開かれた学校づくりの推進
 - ア 学校運営への一層の協力・理解を求めるため、保護者に対する情報提供をきめ細かく行う。
※学校教育自己診断（保護者）「教育情報の提供」満足度 75%以上を維持（R3:74.6、R4:71.1、R5:80.4）
 - イ 地域に信頼され、地域の誇りになる学校をめざし、生徒と地域との交流を積極的に進め、地域とのつながりを強める。
 - ウ 中高連絡会の充実など、生徒が通う地域の中学校との連携を深める。

5 学校経営・運営体制の強化

- （1）普通科専門コース設置校としての学校経営を推進し、教育活動の実施・改善に向け、円滑な学校運営とその機動力を高めるため組織力を強化する。
 - ア 運営委員会の活性化を図り、担当する分掌・学年のリーダーとして相互に連携・協力して、様々な課題を解決する計画の立案に携わる。
 - イ 教員間の OJT を機能させ、経験年数の少ない教員、ミドルリーダーの育成を図る。
 - ウ「働き方改革」の推進のため、職員間の迅速かつ正確な情報共有を図り、分掌・学年・教科相互の連携を強める。
- （2）「リーディング GIGA ハイスクール」研究指定により、1人1台端末の利活用促進に向け、校内体制を整備し推進する。
- （3）教職員対象の本格的な実働防災訓練の実施について研究し、地域と協働する等、防災意識と実践力の向上を図る。
- （4）支援を必要とする生徒への支援体制を充実し、家庭や地域との連携を深め、全ての生徒に対し、安心して安全な高校生活が保障できるように努める。
 - ア SC 及び SSW を配置し、校内教育相談体制を充実させるとともに、外部公的機関との連携を深め、迅速かつ的確な支援を行い中退防止等に努める。
※学校教育自己診断（保護者）「先生はさまざまな問題を見逃さずに対応」肯定率 R8:80%（R3:78.6、R4:68.4、R5:74.0）
 - イ 個別の支援計画の策定・実施を分掌・学年・教科の協働により組織的に遂行し、すべての生徒が安全・安心して学ぶ環境づくりを進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕※表中の（ ）は前年度比	学校運営協議会からの意見
【全般】 ・今年度は、昨年以上に従来の教育活動を取り戻すことができた。学習活動はもちろんのこと、行事活動では校外学習・体育祭・文化祭・修学旅行・球技大会などの実施や、部活動の公式戦や各種大会・発表会への参加、地域交流活動として、恩智川の清掃活動（グリーンウォーク）や池島音楽祭などの地域イベントに参加ができ、生徒にとってもたいへん有意義で貴重な経験となった。保護者の方々の理解と協力を得ながら教育活動を進められており、保護者の方々に感謝の気持ちを持ち、さらなる情報発信にも努めていきたい。組織運営においても連携・協力を図る行動意識が今年度もかなり向上した。大阪府の「リーディング GIGA ハイスクール」研究指定校も2年目に入り、活用率もアップし、今後も ICT 機器を生かした授業づくり、効率的で効果的な学校運営を進めていくことに努めたい。 【学校満足度】 ○生徒「入学してよかった」：85.3%(-1.0)、「学校に行くのが楽しい」：85.4%(+1.7) ○保護者「入学させてよかった」：84.8%(-7.4)、「楽しみにしている」：84.8%(+2.5) 下降になっているものがあるが、概ね高い水準が得られている。 ○「特色ある教育活動」生徒：78.2%（+0.7）、保護者：65.2%（+3.6） ○「コースや授業は役立つ」生徒：88.7%（+2.2）、保護者：85.7%（-0.8） 概ね高い水準を保つことができている。本校は「地域に根ざし、地域とともに歩む学校」を掲げ、「こども保育専門コース」での保育実習、近隣の園との連携・交流、地域貢献部の生徒を中心とした地域イベントへの参加や清掃活動などが昨年以上に行うことができている。こうした地域に根差した活動に参加する生徒が増えるような試みが必要であると考えている。 【学習指導等】 ○「教え方に工夫、授業はわかりやすい」生徒：80.2%(+4.5)、保護者：56.1%(-2.1) ○「ICT 機器の活用」生徒：93.7%(-1.4)、教員：100%(+8.5) ○教員「授業方法等の検討する機会を積極的に持っている」71.1%(+9.4) 「年間の学習指導計画を教科でよく話し合っている」68.9%(-3.4) ○生徒「自分でまとめる・発表する」87.2%(+6.7) ○「家庭学習時間の確保」生徒：50.0%(+1.5)、保護者：42.0%(-8.8) ○「補習・講習は十分」生徒：84.2%(-2.3)、保護者：68.4%(-2.6) 「授業はわかりやすい」についての肯定的意見が増加しているにもかかわらず、家庭学習時間の確保の数値が伸び悩んでいるのが重要な課題であり、原因を分析し、今後も授業の改善に取り組んで行く必要がある。しかし、生徒の「自分でまとめる・発表する」がさらに上昇しているので、授業の内容については大きく評価したい。「ICT 機器の活用」については、「リーディング GIGA ハイスクール」の研究指定校が2年目に入り、ネット環境や黒板の設備などが改善できた成果である。 【生徒指導等】 ○生徒「先生の指導は適切」83.9%(-0.4)、「基本的習慣の確立」84.2%(+1.4) ○保護者「指導方針に理解」79.8%(+0.8)、「指導に協力」84.2%(-1.6) 概ね高い水準であり、生徒の理解や協力はもちろんであるが、保護者の協力と教員の地道な指導の成果だと考えている。 <相談対応> ○生徒「先生は意見をよく聞く」86.1%(-0.5) 「担任以外に相談できる先生がいる」73.7%(+1.5) ○保護者「相談に適切に応じる」88.6%(+7.3)、「生徒の相談に親身」71.1%(-2.9) 先生方の努力の賜物である。 <進路指導> ○生徒「進路実現に向けて適切な指導」92.6%(-0.3) 「奨学金について十分に説明」83.1%(-4.7) ※保護者 72.4%(-5.1) 「コースガイダンスは適切」92.6%(-1.3) ○保護者「進路情報提供は適切」85.9%(+4.6)、「進路指導が適切」87.8%(+1.6) 学年と進路指導部の連携がうまくいっており、日々の担任と進路指導部の指導やサポート、「総合的な探究の時間」や進路 HR、キャリア教育、卒業生による講話等の成果である。保護者への連絡ミスがないよう、情報提供・周知の工夫に努めたい。 <人権教育> ○生徒「クラスやクラブは話せる集団」87.6%(+1.4) 「人権教育の推進」89.9%(-0.5)、「命の大切さや規範意識を学ぶ」92.9%(±0) 何か問題が起こった時に、迅速に対応ができている。安全で安心な学校であることに努めていきたいと考えている。 <部活動> ○生徒「部活動に積極的に取り組んでいる」63.5(+0.9) 部活動に参加している生徒の意識は高まり、部活動加入率も前年に比べ少し増加している。部活動の魅力を発信し、「合同部活動大阪モデル」も推進し、また教員の働き方改革を進めながら、部活動の意義を損なうことなく生徒の活動の場を広げたい。 【学校運営等】 ○教職員「学年・分掌は組織的」88.9%(+20.8)、「組織間の連携」73.3%(+7.3) ○生徒「先生は協力して指導」87.0%(+2.8) 「組織間の連携」について、教職員の意識と努力により、今年度も大幅に上昇し、生徒からも先生方は協力して指導しているとの好評価を得た。 ○「ホームページ」生徒 25.9%(+5.2)、保護者 33.0%(-4.1) ホームページをとても見やすいようにリニューアルすることができたので、日々の情報発信に努めたい。	【第1回】6月20日（木）開催 ・自転車の危険運転を指導するための生徒指導の時間を確保してください。（傘さし運転・イヤホンをして運転することの危険性、横に広がって道路をふさぐ形で運転することの危険性） ・ヘルメット着用指導、また、学校周辺では、街灯が少ないことに伴い、冬場の下校時の安全確保のため、地域 自治会との連携、関係機関への要望書の提出など、地域で協力できるところは頑張りたい。 ・欠席が増えており、特に不登校による欠席が増えているという話を聞いている。コロナの影響なのか？単位制に通う生徒が増えており、転学する生徒が多いとの情報もある。中学校時代に不登校を経験した生徒が高校に入って、克服したという話も聞いている。不登校の生徒にとって、高校が安心安全に登校できる場所となるような取り組みを頑張してほしい。 ・学校で「分野別説明会」などの実施をされているが、進路ガイダンスとして、実際に働いている人から体験談を聞くことによって、職業観が育成できる取り組みも考えてほしい。 ・学校の特色として、「子ども保育コース」と地域の保育園との連携が進んでいることが挙げられる。高校生のときから、保育実習として職業体験活動に参加され、卒業後に就職先として、地域に戻ってきてくれている。地域貢献のお手本である。 ・外部教育産業のコンテンツを導入して、教育成果が上がっている。今後も継続してほしい。 ・防災避難訓練について、地域との連携も考えてほしい。今年度は、スケアードストレイトが実施されると伺っている。地域自治会へ参加も呼び掛けていただけると連携の一步が踏み出せるのではないかと。 ・この人数規模の学校で、遅刻者数 1000 未満を達成しているのは、とてもよく頑張っていると言える。また、交通が不便な立地条件にも関わらず、入学者選抜で常に定員を充足していることは、学校の魅力を十分に発信できているということであり、すばらしいことである。 【第2回】10月7日（月）開催 ○授業見学を終えて ・ほぼどの授業も生徒は1人1台端末を机の上に出して授業を受けていた。授業の方法が昔に比べて本当に変化していると感じた。 ・グループワークを行っている授業では、テーマに沿って生徒が活発に討議を行っており、生徒が生き生きと授業に取り組んでいる場面が見られた。 ○交通安全指導について ・本日の進捗状況報告の中に、現時点までの主に通学途上における自転車事故発生件数のデータがなかったため、どれくらいの交通事故が発生しているのか、教えてほしい。 ・最近、通学中の生徒でイヤホンをしながら自転車を運転している場面をよく見かける。学校としてどのように指導していくのか、早く示していただきたい。 ・高校生がスマホを見ながらの自転車の「ながら運転」をよく見かける。道路交通法の改正で、罰則の対象となり、非常に危険なので、時間をかけて指導してほしい。 ・ヘルメット着用については、努力義務であると聞いているが、他府県では着用を義務付けているところがあると聞いている。 ○大学入試について ・生徒数減少のため、大学では総合型選抜や AO 入試など年内入試で志願者を確保するところが増えて来ている。 ・関東地方の大学が関西にまで広報活動に来ている。 ・今、大学入試は売り手市場なので、高校3年生にとってはチャンスである。大学進学希望の生徒にどんどんチャレンジさせて、希望の進路実現を叶えてあげてほしい。 ○まとめ ・今年度の重点目標や達成目標、具体方策について、計画通り実施できていると思われるので、年度末に向けて、目標達成に向けての努力を継続してほしい。 ⇒交通安全指導については、委員の意見を反映した指導を今後実践していきます。 【第3回】2月3日（月）開催 ・授業アンケートの結果から、全項目で良好な結果が得られており、目標は達成されている。 ・学校教育自己診断の結果から、肯定率が低い項目である「生徒の家庭での学習時間等の状況」「学校 HP を活用した情報発信」については、次年度に向けて新たな取り組みを行ってほしい。 ・今年度、学校 HP のリニューアルを実施され、HP が見やすくなった。次年度は、この HP を活用した学校からの情報発信について、受信者側の対象の設定や発信内容などの整理が必要である。 ・「こども保育専門コース」での保育実習、近隣の園との連携・交流、地域貢献部の生徒を中心とした地域イベントへの参加や清掃活動などが昨年以上に行うことができている。「地域に根ざし、地域とともに歩む学校」を掲げられているので、継続して実施していただきたい。 ・地域交流活動として、恩智川の清掃活動（グリーンウォーク）治水緑地の清掃活動（グリーン活動）や池島音楽祭などの地域イベントに参加。次年度も継続して行っていただきたい。 ・遅刻者数のアンダー1000 の目標については、もともと達成させることが難しい目標値であるように思う。全体の遅刻者数は減少してきており、指導の成果は表れているのではないかと。 ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」についての肯定的意見が増加しているにもかかわらず、家庭学習時間の確保の数値が伸び悩んでいるのが重要な課題であり、原因を分析し、今後も授業の改善に取り組んで行く必要があるため、先生方の更なる授業力向上の取り組みや生徒への働きかけを行っていく組織を作ることが急務である。 ・交通安全運動の取り組みとして、スケアードストレイトを実施。地元警察、地域住民参加のもとでの実施ができた。次年度も継続して行っていただきたい。 ・来年度は、広報活動について推進していく組織体制が作られると伺ったので、肯定率回復に期待したい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R5年度値] ＊％は肯定率	自己評価
1 確かな 学力の 育成	(1)授業力向上 ア 授業改善に組織的に取り組む イ ICT 機器を活用した授業づくり	(1)ア・研究授業、相互授業見学等の組織的な実践 ・「観点別評価」の実践及び検証、次年度案作成 ・実習・体験学習の推進（校外も含む） ・新学習指導要領に則ったカリキュラムの策定 ・令和7年度入試を見据えた授業内容等の検討 イ・「考える授業」、発表の機会を増やす授業展開の実践 ・1人1台端末及びICTを活用した授業展開の開発・実践（「リーディング GIGA ハイスクール」研究活動）	(1)ア・生徒「入学満足度」85%以上 [86.3%] ・授業アンケート全評価平均 3.30 以上 [3.33] ・生徒「授業はわかりやすい」80%以上 [75.7%] 令和7年度「共通テスト」への対応に向けた研究 ・教職員「授業方法等の検討機会」60%以上 [61.7%] イ・生徒「ICT 機器の活用」90%以上 [95.1%] ・教職員「ICT 機器活用」90%以上 [91.5%]	(1) 「リーディング GIGA ハイスクール」の研究指定校2年目であり、ICT 機器の活用が進み、生徒の発表の場が増えている。 ・「入学満足度」85.3% (○) ・授業アンケート平均 3.45 (◎) ・「授業はわかりやすい」80.2% (○) ・「検討機会」71.1% (○) ・生徒「ICT 機器の活用」93.7% (○) ・教職員「ICT 機器の活用」100% (◎)
	(2)進路実現の支援 ア 学習習慣の確立に取り組む イ 組織的な補習講習体制の確立 ウ 進路指導力の向上と生徒の能力を引き出す指導の実践	(2)ア・授業の予習復習を習慣づける家庭学習の充実 ・教育産業を効果的に活用する学習支援体制の確立 イ・教科を主体とする校内講習体制の確立 ・早朝や放課後、長期休業中の講習等の充実 ウ・令和7年度「共通テスト」の動向の把握と共有化 ・担任の進路指導力向上に資する情報交換会等の実施 ・生徒、保護者への適時な進路情報の提供と周知徹底、 ・大学見学会、外部説明会への参加、卒業生による講話等を活用した進路意識の向上 ・各種検定試験への挑戦、資格取得による意欲向上	(2)ア・生徒「家庭学習時間の確保」50%以上 [48.5%] 新たな学習支援教材の成果検証と改善 イ・生徒「補習講習は十分行っている」80%以上 [86.5%] ウ・生徒「進路指導満足度」85%以上[92.9%] 保護者向け進路説明会等の充実 ・保護者「進路情報提供満足度」80%以上[81.3%] ・各種検定試験受験者数、合格者数、有資格者数の状況	(2) 入学時より勉強方法や1人1台端末の活用方法を指導している。補習や講習も早朝や放課後、長期休みを利用して行っている。保護者に対しても、早い時期から丁寧に進路の情報を提供している。 ・「家庭学習時間の確保」50.0% (○) ・「補習・講習は十分行っている」84.2% (○) ・「進路指導満足度」92.9% (○) ・「進路情報提供満足度」85.9% (○)
	(3)専門コース制の充実	(3)・令和6年度入試結果を踏まえた分析結果の共有 ・分析結果を生かした専門コース、一般文系・理系生徒への学習計画の構築及び実践 ・こども保育専門コースにおける教科間連携の充実、地域のこども園等との交流の拡充、さらなる充実	(3) 生徒の希望に応じた進路指導を丁寧に行う。 ・生徒「コース選択ガイダンス満足度」90%以上[93.9%] ・大学入試共通テストの受験者数 30 人以上[26] ・関西 8 私大・国公立大の現役のべ合格者数 40 人以上 [23] ・園児と交流する授業を推進する。	(3) 学年と進路指導部員がしっかり連携を取り、日々、丁寧な進路指導、進路説明会などを行っている。 ・生徒「コース選択ガイダンス満足度」92.6% (○) ・「大学入試共通テストの受験者数」5人 (△) ・「関西 8 私大等現役のべ合格者数」40 人 (○) ・地元の保育園 2 園と授業を通して生徒が主体的に交流できた。夏季休業中も保育園で実習を行うことができた。(○)
2 コミュニ ケーション 力の 育成	(1)生徒指導の充実	(1)・全教職員による生徒指導課題の共有、共通理解 ・生徒の規範意識の向上にむけた組織的な実践 ・身だしなみや自転車マナーの講習会の開催 ・全教職員による授業規律、遅刻指導の徹底	(1)・生徒「基本的習慣の確立」80%以上 [82.8%] ・遅刻者数 1,000 以下を維持 [878]	(1) 生徒の理解と頑張り、早朝からの教職員による駐輪場や下足室、廊下での声掛け、担任による丁寧な SHR の運営の成果である。 ・「基本的習慣の確立」84.2% (○) ・「遅刻者数」 943 人 (○)
	(2)ともに高め合う 集団育成	(2) ・グループワーク等を導入した表現力、発信力の育成 ・生徒会活動、行事における生徒の主体的な活動の充実 ・学校行事実現・充実のための感染症対策と計画の策定	(2)・生徒「クラス活動が活発」75%以上 [86.8%]	(2) 昨年以上に、生徒の主体的な活動の場ができ、主体性の向上につながった。 ・「クラス活動が活発」86.2% (○)
	(3)人権尊重の教育の充実	(3)・一人ひとりの違いを認め合い、安心して学び高め合うクラスづくり、学級経営の実践 ・豊かな人権感覚を醸成する「総合的な探究の時間」の実践による体系化、道徳教育の推進	(3)・生徒「クラスやクラブは一人ひとりが尊重」85%以上 [86.2%] ・生徒「人権教育の充実」85%以上[90.4%]	(3) 人権的な問題が起こると、すぐに学年集会を開くなどができ、生徒への注意喚起ができています。引き続き、学校をあげて人権尊重教育に取り組んでいきたい。 ・「一人ひとりが尊重」87.6% (○) ・「人権教育の充実」89.9% (○)
3 課題 解決 力の 育成	(1)主体的・対話的で深い学びの実践	(1)自分の考えをまとめて発表する学びの充実 ・論理的思考力・判断力・表現力の育成 ・SDGs に関する探究活動の企画・実践 ・読書活動、図書館を活用した教育の推進	(1)・生徒「まとめて発表」75%以上 [80.5%] 各教科の授業や「総合的な探究の時間」で SDGs に関する研究発表を計画的に実施する。 ・ビブリオバトル等、読書活動・発表活動の充実を図る。	(1) 「総・探」だけではなく、通常の授業でも、生徒が発表する機会が増えた。 ・「まとめて発表」 87.2% (○)
	(2)部活動の充実	(2)「合同部活動大阪モデル」の推進と部活動の活性化を図る ・外部指導者の活用 ・学校説明会等での中学生の部活動見学実施 ・中学校との部活動交流のさらなる充実 ・ホームページやブログによる活動報告等の随時発信	(2)・部活動加入率 60%以上 [50.1%] ・外部指導者を拡充し活動の充実を図る。 ・ホームページの更新に努める。	(2) 今年度も「合同部活動大阪モデル」を推進し、さらに外部指導者も招聘して、部活動が行われた。部活動の魅力をもっと発信し、部活動加入率のアップにつなげたい。 ・「部活動加入率」 53.6% (△) ホームページをリニューアルすることができたが、情報発信が低調であったので、組織的に取り組んでいけるように努めたい。

府立みどり清朋高等学校

4 地域貢献力の育成	(1)地域と連携した教育活動の展開	(1)・地域の学校や福祉施設などとの連携と広報の充実 ・小・中学校への出前授業、こども園等での生徒の実習体験、自治会事業への参加の推進 ・部活動での小・中学生との交流 ・学校周辺の美化活動の推進	(1) 地域との交流活動、貢献活動の奨励と成果発信 ・生徒「地域の人々などとの交流」肯定率 40%以上 [45.0%] ・生徒「学校の美化」80%以上[85.6%]	(1) 保育園 2 園との交流、保育園での実習、中学校での説明会への参加、「池島音楽祭」や恩智川の美化活動（クリーンウォーク）への参加、老人ホームへの慰労活動などが実施できた。 ・「地域の人々などとの交流」 50.8% (○) ・「学校の美化」 83.0% (○) (2) ・「命を大切にする心」 92.9% (○) (3) PTA 活動については、体育祭への協力、文化祭でのバザー、社会見学、文化教室の開催などを行うことができ、参加しやすいPTA 活動ができたと思われる。 ・中学校への説明会は 4 回、出前授業は 1 回行うことができた。 ・学校説明会は 4 回行い、4 回とも生徒が司会、説明、誘導、案内などを行ってくれた。昨年以上の参加者があった。中学生や保護者には、生徒の生の声が聞けたということで好評であった。 ・「授業参観の機会」66.0% (△) ・「生徒の司会進行による学校説明会」 4 回 (○) ・部活動での中学生交流会の実施」 7 部 (○) ・中学校への説明会・出前授業 4 回 (○)
	(2)防災意識の啓発 (3)開かれた学校づくりの推進 ア タイムリーな保護者への情報提供 イ 中学校等への広報活動	(2)防災避難訓練の企画・実践。防災教育の取り組みのさらなる充実 (3)ア・保護者対象の授業見学会や講演会の充実 ・学校行事における PTA との一層の連携 イ・生徒が活躍する学校説明会を開催（3 回以上） ・地域に根ざした中高連携の内容充実 ・中学校の説明会への参加、出前授業の実施	(2) 防災訓練のさらなる充実 ・生徒「命を大切にする心」90%以上[92.9%] (3)ア・保護者「授業参観の機会」80%以上[85.1%] ・参加しやすいPTA 活動に努める。 イ・生徒の司会進行による学校説明会（3 回以上） ・部活動での中学生交流会の実施（5 部以上） ・中学校への説明会、出前授業の実施（3 回以上）	
5 学校運営体制の強化	(1)持続可能な学校組織運営の確立 (2)新しい学校づくりを進める運営体制の強化	(1)・持続可能な学校運営の体制作り ・全教職員が教育目標達成に向けて、協力し支え合い実践する組織づくり ・経験年数の少ない教員への OJT、ミドルリーダーの育成 ・分掌、学年、教科、事務室が有機的に結びつき、より機能的合理的に職務を遂行できる職員集団の形成 ・校務多重化の解消や学校部活動方針の遵守及び全校一斉定時退庁日の遵守などによる「働き方改革」の推進、時間外超過勤務の削減 ・SSW 配置を継続し、教育相談支援体制を充実する。 (2)・ 1 人 1 台端末の活用に向けた校内体制整備 ・ICT を活用した授業実践に向けた教員研修の実施、好事例の共有	(1) 将来構想委員会を中心に、持続可能な教育活動の取り組みを考える。 ・生徒「先生は互いに協力して指導」80%以上 [84.2%] ・教職員「組織間の連携」60%以上[66.0%] ・教員の時間外超過勤務時間の月平均値（4 ～ 2 月） 25h [24.4 h] ・SC、SSW、相談室、保健室、委員会間の連携充実 ・教職員「教育相談体制の整備」75%以上 [83.0%] (2)・校内体制の整備を行う ・教員向け ICT に関する研修の実施や好事例の共有及び他校への発信	(1) 何事にも複数で組織的に取り組むよう促した。SCやSSWともしっかり連携が取れていた。 ・「互いに協力して指導」 87.0% (○) ・「組織間の連携」 73.3% (◎) ・「時間外月平均値」37.1 h (△) ・「教育相談体制の整備」 88.9% (○) (2) 「リーディング GIGA ハイスクール」の指定も 2 年目に入り、ますます活用が広がっている。しかしながら、主担者の負担が大きくなっていて、課題を残した。校内体制を整備し、組織的に取り組めるよう努力したい。